

令和元年度第3回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議（A班）

会議録

1. 日 時 令和元年11月28日（木）午後3時～5時
2. 会 場 我孫子市役所 会議棟1階 A・B会議室
3. 出席委員 熊田委員、大炊委員、白土委員
4. 議 題
 - (1) 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略における平成30年度施策評価について
 - (2) 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延長について
 - ①重要業績評価指標（KPI）の目標値設定および変更
 - ・我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策一覧【資料1】
 - ②基本目標の目標値設定および変更
 - ・我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標一覧【資料2】
 - (3) その他

○熊田副委員長 前回の10月1日の資料でどこまでいったかということなんですけれども、総合戦略の基本的方向の（3）からということじゃないかな。

○事務局 前回の会議のときに、こちらの班は、ざっとですが見ていただいて、今回の会議ではもう少し何か気になるところを深掘りして見てみましょうかというお話になったかと思えます。

本日、お配りした資料1のほうですけれども、前回お配りした資料と若干変更がありますので、そこだけちょっと説明させていただいてよろしいでしょうか。

○熊田副委員長 はい、お願いします。

○事務局 資料1のまず1ページ目なんですけど、2番の施策です。

「空き店舗補助制度を活用した出店数の累計」、こちらはもともと前回の会議のときも所管課からは変更したいということで来ておりまして、そちらを新たな令和3年度の目標値を入れた状態で下の行に挿入しております。

また、同じ理由で次の2ページ目になりますが、18番の「相互連携事業の取り組み数」、

こちらについては企画課から修正したい旨、前回の会議でご説明したとおりですが、こちらの実績や目標値、新しい数値を下の行に入れております。

さらに、その下の19番、「総合型地域スポーツクラブの大学生会員数」、こちらは前回の会議のときに、大学生会員数ではなくて、新たに組織を立ち上げるという話があるなら、立ち上げた組織数というのを指標にしてもいいのではないかというご意見を頂戴していましたので、所管課の文化・スポーツ課と協議した結果、「新たに立ち上げる総合型地域スポーツクラブ数」という形で新たな指標として下の行に入れております。以上3点が本日お配りした資料で変更になっている部分です。

○熊田副委員長 ありがとうございます。

ということであれば、今の変更点のところを中心にもう一度検討してもいいのかなと思えますけれども、1ページ目の2番、「空き店舗補助制度を活用した出店数の累計」、これが活性化補助金を活用した事例件数になるというところで、新目標値、令和3年度が21件ということです。

まず、この内容について質問等、深く聞いておきたい点はございますでしょうか。大炊さんどうですか、何かこれについて聞いてみたいところとか、深く掘り下げたいところがありますか。

○大炊委員 商店街のほうには詳しくはないですけれども、一般的にシャッター通りになったところって、なかなか復活が難しいというような話を聞く中で、これは新たな出店をするという意味ですよ。

○事務局 そうです。それ以外にも複数の支援策をパッケージしているのですが、例えば④の街路灯の維持というのは、従来から実施している支援策でして、商店会で管理している商店街街路灯の電気代の半分を助成するものです。また、②の活性化取組みについては、お祭りやイベントなどに対して、活動費の半分を助成するものです。そのほか、アーケードの設営、商店街が主体となった空き店舗の解消など、さまざまな取組みに対しての支援策を全てパッケージしたのになっています。

○大炊委員 補助金といいますと、全額の補助ではないんですね。

○事務局 そうです。

○大炊委員 やらないよりはやったほうが良いというところ。実際にこういう空き店舗を利用したいというような方々は具体的にどのような方がいらっしゃるのでしょうか。

○事務局 今、申請が比較的多いのは、整骨院やマッサージ屋、飲食店です。個人が申請して

空き店舗に出店するという従来の補助制度が、今回こちらの新しい制度に変わっており、商店街単位として空き店舗を解消したいということに対して補助金が出るような仕組みに変わっています。

○大炊委員 個人ではなくて商店街に。

○事務局 そうですね、そちらが主体となって何かやるというところであれば。

○大炊委員 じゃあ、ほんとにこれからの支援ということですね。

○事務局 そうですね。

○白土委員 21件というのはどこかの数字なんですかね。

○事務局 もともと④の街路灯の維持というのが、現在、固定で11商店会に補助金を支出しています。残りのお祭りに対しての補助が、現行でたしか7か8ぐらい支援をしているということで、合わせると大体20弱の件数に対して補助金を支出しています。それを、令和3年度までに21件まで増やすという形で所管課からは出ています。

○大炊委員 実際、全体の予算の枠って、どのくらい取れていますか。

○事務局 予算枠は、これからの予算ヒアリングや査定の結果で変更になるかもしれませんが、約500万円です。

○大炊委員 その予算の中で21件をカバーしようと思えば、街路灯とか細かい施設整備で終わってしまうところですよ。

○事務局 商業観光課では、予算要求の前に商店会に向けて、来年度どういうことを予定しているかをヒアリングしており、その結果として金額を積み上げてこちらに要求しています。そのほかに、年度途中で新たな支援をしていくとなった場合には、市の判断として補正予算をつけるのかどうかといった話になってくると思います。

○大炊委員 この予算が妥当なのかどうかという部分もあるとは思いますが、実際の商店街が日本全国でだんだん減っている要因が、アーケードが傷んで雨が漏ってしまうということで、それが原因でお客様が減ってきて、商店街として成り立っていないというような話も聞くところなので、そういうところの補助というのかなりの費用がかかってくるのではないかと思います。予算的にたくさん取れたほうが良いような気もしますけどね。

○事務局 そうですね。今おっしゃったように、アーケードだと③の施設整備というところで見えてくると思いますが、今年度のヒアリングのときには、来年度アーケードをつくりたいという声が上がってなかったのだらうと推測できます。

○大炊委員 実際ヒアリングの中で、こういう要望があつての予算組みという形なんですね。

○事務局 そうですね。

○白土委員 実際、商店会って、場所にもよると思いますが、機能していないところもありますよね。

○事務局 中には、街路灯を維持するだけのところもあります。

○白土委員 そうですよ。だから、私は南口のほうの商店会に入っていますけれども、南はまだマシなんですね。商栄会という名前でありますけれども、北口は多分ほとんどやっていないですよ。だから聞くと、会費を納めているだけという人が結構いて、決してシャッター街ではまだないんですけど、現状としてはどんな感じなんですかね。全部で21ということですか。

○事務局 商店会自体は恐らく20ぐらいだと思います。街路灯維持の案件が毎年11ということなので、残りはそれすらできないところになります。

○白土委員 申請があるのは11商店会ということですか。

○事務局 はい。ほぼ機能しているのは半数になってしまっているという現状だと思います。

○白土委員 そうですよ。多分南口のほうもお祭りとかがあって、集まって。

○事務局 そういうイベント的なものが行事としてあるものは、何とか商店街を維持というレベルですよ。活性化に対して切りかえていく段階に持っていくまでが、正直、まだまだステップを踏むしかないのかなということですね。

○白土委員 そうですね。結局、変な話ですけども、例の総計審のほうで8割が大体日用品については市内で購入されているという結果だったと思うんですけども、それが商店会とかでやられているかどうかというのはまた別な話ですものね。ヨーカ堂が両側にあってという場所もありますし、あるいは各駅に生鮮スーパーも今できていますからね。

○事務局 その8割というのがまさに日用品に関しては足りているよというスタンスで捉えることもできるじゃないですか。そうなると、現状から言うとなかなか商店街で売り出されているところではないのかなという感じですね。

○白土委員 結局、昔からやっている小売りのところは、やはり着実に減っていると思うんですよ。自分の出している店の周りを見てもそうですから。

結局、ニーズがないところで生きていくというのは難しいかなと思うんですけども、その辺が皆さん悩んでいるといえは悩んでいるのでしょね。

幸い駅の南口のほうは、皆さん連帯が強いというか、固まって定期的にお会いになっているということなので、たまに私も会に出させていただきますが、やっていますね。ほかのと

ころだとどうなのかな。天王台とかはやっているのかな。

○事務局 天王台は、北も南も活気がある方だと思います。

○白土委員 そうですね、そんな感じですね、天王台は。

○事務局 お祭りにスタンプラリーと、結構大々的なイベントを実施しています。

○白土委員 あそこもサンバでしたっけ、何かやっていましたね。

○事務局 湖北台で実施しています。商店会の中でも青年部が組織されているなど、若い人たちが集まって何かをやっている、そういう商店会はきちんと精力的な活動をしているかなという印象はありますね。我孫子の南口、商栄会もそうですけど、天王台や布佐も若い人たちの部会があります。

○白土委員 結局、東西に長くて、駅がたくさんあるので、逆に分散しちゃっている感じはありますよね。その人口でいくつもいくつも分かれるので。普通やっばり15万人ぐらいの人口だと、1つとか、多くて2つぐらいのところだと非常に集まって活気も出てくるのでしょうけどね。

○大炊委員 北と南というと、やはり南に集中する。南に住宅地が結構多いということですか。

○白土委員 ところが、今、北もマンションが多いので、我孫子駅は北口も同じぐらいの乗降客がいると思います。ただ、古い人たちがもう二代目の世代になっていて、そういう方たちがやっばり南のほうにはいるので。目先、当然手賀沼があるので、そっちへの施策というのでも打たれているので、まあまあ先にあるということと、神社のお祭りがあるので、それだというのも多分あると思います。

○事務局 本町地区あたりがお祭りとか主になってきている感があるので、やっばりそれが南側にありますので。

○白土委員 それはありますね。

○大炊委員 北側はもともと商店街があってマンションができたわけではなくて、商店街はもともとなかったんですね。住宅のほうが優先してしまったんですけども、そこに大手のスーパーさんがあるので、事足りてしまうということ。

○白土委員 そうなんでしょうね。

○大炊委員 今のお話を聞いてみると、若い世代の人がリードしてやっているところは何とか生き残っているというお話ですので、やっばり若い人が重要ですね。

○白土委員 商店会では、50代でも若いと言われてます。

○大炊委員 そうなんですか。

- 白土委員** 上の代というのが70代なので、若いといっても50代ぐらいです。
- 大炊委員** 30代、40代というわけではないんですね。
- 白土委員** そういうわけではなくて、まあ40代もちょいちょいいますけど、主力はやっぱり50代とか60に近い50代なので。でも、それが若手というのが……。
- 事務局** 地区の中では若手。
- 白土委員** 先代がいますからね、まだ。
- 大炊委員** でも、何とかして残さなきゃいけないという使命感があるので。
- 熊田副委員長** さっき言われていた商店街とお祭りとの連携する部分は、お祭りに対する補助金みたいなものが商店街側は何か施策はあるんですけど。
- 事務局** 商店会のほうで主体となってお祭りというのを企画しているのがほとんどですね。それに対して、適用される科目の2分の1を商工会が補助するという形です。
- 熊田副委員長** 要件が厳しいとか、そういうことはあるんですか。
- 事務局** 厳しいというのは基本的にはないです。事業計画を見せてもらい、飲食費が対象事業費に入っていないか等の確認をしています。
- 白土委員** 2年度からは市でも出せるということですか、その商工会経由とは別に。あるいはこれ自体が。
- 事務局** そうです。商工会による支援策を今度は市が行います。ただ、商工会からも別の形で運営の支援をしていると思います。
- 白土委員** それを含めてということですね。
- 熊田副委員長** さっき白土さんが言われた湖北のサンバカーニバルは、私の知り合いが実行委員とかをやっているんですけども、やっぱり予算がなくて、なかなか大変だと言うんです。どれだけあっても、何年維持できるかというところになっちゃっているということです。
- 白土委員** 結局、今、人出が増えるんだけど、警備の予算がかかっちゃうんですね。要するに治安といいますか。やっていること自体の経費って恐らくそんなに膨らんでいないんですが、そのほかのものがやっぱり膨らんできていると思うんです。
- 熊田副委員長** うまく消防団とかと連携して、比較的そっちにコストがかからない形ではやっているみたいですけども。
- 大炊委員** 今、お祭りというか、そういうイベントがあるから頑張ってもらっているというお話もありますけれども、イベント的なものは年に1回とか2回とかの短期間のもので、それだけで商店会を活性化させるものではなくて、あくまでも補完的な部分であって、本来の

活性化させる取り組みの本質的なものはまた別にあると思うんですね。

大手のスーパーさんに対してどう対抗していくかということが一番で、大手にないものの魅力を地元の商店会で打ち出していけないと、やっぱり疲弊してってしまうのではないかなと思うところです。

実際に残っている商店会さん、以前活性化していたときと現在の商店会で、どういう職種が残っていて、どこが淘汰されていったのか、そこを見きわめたり、今後将来的に手賀沼課を含めた、集客で必要なものというのはどういう取り組みなのかということも検討して行って、新たな空き店舗にそういうような業種の人たちを取り込んでいくというような本質的なところから検討していけないと、お祭りをやっているからいいんだというところはどうなのかなと。

○事務局 確かに一過性のもんですね。

○白土委員 そうですね。それが本質じゃないですからね。

○大炊委員 そうですよ。だから、我孫子ならではものの商店とか、そういうことを考えていく必要があるのかなと思います。

○白土委員 なかなか難しい話ですが、例えばさっき20とおっしゃいましたけれども、20が多いのか少ないのかという議論が多分あると思うんですね。多分、商店街という定義が特にあるわけではないと思うので、商店街としての体をなすだとか、そういうところもちょっと考えなければいけないかもしれませんね。当然、商売をやめろとか、そういうことが言えるわけではないので、それとは別にですね。

ただ、もしかすると商店街がなくても生き残っている人たちは、別の要素で生き残っているということもあると思うんですよ。だから商店街という考え方というか概念というか、それってもしかしたら変えなきゃいけない。恐らく市の施策としては、当然そういうものがあるって、まちとしてのにぎわいということと、住んでいる近くに商店があれば、当然、物のやりとり、お金のやりとりがあるので、活性化するということはあるのでしょうけれども、やっぱり人の行動範囲というか移動可能距離が長くなっちゃったので、近くにある必要がなくなっちゃっているんですね。徒歩が中心の時代というのは、当然近くに商店街があって、そこで物が買える。逆に買えないと生活が立ち行かなくなる。

相反するように、市内の例えば電車ですとかバスですとか、そういうものがよくなればなるほど、近くに商店街がある必要がなくなってきてしまうので、そこは衰退してしまうという感じになってきて、逆に当然便をよくしてくれという要望は皆さんからあるわけですよ。

そうすると、一方でもともとあったものが沈んでいってしまうということが起きているんじゃないかな。結果として、今活気のあるところに多分人が集まってきていると思うんです。そこへ行けば用が足りる、あるいは天王台なんかですと特徴的な店があるとか、あそこも住宅街を抱えていますから、そこから来るということもあると思いますけれども。最終的な話としてはなかなかまとまらないんですけども。

○大炊委員 難しいですね。本当に商店会を残すことの難しさというんですかね。最近感じるところは、軒並みお花屋さんがどんどんと閉店している中で、うちもできればお花の充実を図りたいと思っていて1軒入っていたんですけど、やはり閉めるということで撤退されてしまったんです。だから直接市場からのお花屋さんしか入っていないので。

○白土委員 閉めてしまった理由というのは、やっぱり売り上げの問題ですか。

○大炊委員 みたいです。やはり継続できないということ。

○白土委員 今、花の需要ってイベントで左右されるようなところになってきちゃってますからね。継続的に買う人ってなくて、何とかの日とか記念日がないと。

○大炊委員 毎日お花が要るものではなくて、例えば誕生日のときのプレゼントとか特別な日でないとなかなかお花とかを手に入れないというところがあって、常にお店を開いていて、お花を常に置いておくというのは非常にロスにつながってしまったりもすると思うんですよ。それでどうしても費用対効果で難しくなる。やっぱり生活の中に常にお花を入れておくという状況でなくなっている。それだけ忙しくなっているのでしょうけれども、そういう生活者の生活パターンということも考えながら、じゃあ、どういう職種であれば生き残っていけるのかとか、そういうところも研究をして、そういう必要な職種の人を導入していくというような。

あと、空き店舗を最近は高齢者の方たちの集まりのサロンみたいなものに切りかえているというところもあって、それで活性化につながるかどうかわかりませんが、空き店舗対策には一つの方法でもあるのかなと。

○白土委員 恐らく今、時代の流れとしては、物を売る店舗ってどんどんなくなるんだと思うんですよ。ネットで購入する人がどんどん増えているような状況ですから、実際、百貨店ですとか、そういうところもそういうことにさらされていて、調子がいいのはネットの店舗と、あと生産者小売りというやつですね。生産者がそのまま売る。ユニクロとかああいうようなもの。

○大炊委員 流通をカットしたということですね。

○**白土委員** そうですね。そういうブームになってきているので、商店街の考え方をもしかしたら変えていく。大炊さんがおっしゃったように、人が集まるということは非常に大事なことで、「物」を売るということから「事」を売るというんですかね、そういうようなところへどんどんシフトしていかないと、やっぱり難しいのかなという気がしますね。

だから、なかなか小さい店舗だと難しいんですけども、中規模ですとか、ある程度の大きさの生鮮スーパーですとか、ヨーカ堂さんなんかもそうですけれども、やっぱりタイミング、タイミングでイベント事を打っていますよね。そうしないと集客が維持できないので。そういったことの努力というか、そういったことに対して例えば補助していくとか、民間ベースの企画ですね。そういう形に、どれぐらいかかるのかというのは具体的には言えないんですが、そういうことも考えていったらいいんじゃないかなと思います。

○**大炊委員** そうですね。一応、物を売る立場ではいるんですけども、常に季節の先取りをして、お客様に次の季節はこれです、これですと、常に先手、先手を打っていかなければいけないという現在の状況の中で、それをするためにはいろんなお金がかかってくるのかというのがあったりするので、そういう細かなところでの補助とか。

○**白土委員** そうですね。そういうイベント毎で。大体1年間終わればまた同じ1年が来るので、1回やっちゃえば翌年は大体同じパターンで、ちょっと目先を変えるだけでいいので、この時期にはこれ、この時期にはこれというのがあって、大体消費者の方は、ああ、そういえばこの時期はこれだったから、じゃあ何かしなくちゃいけない、そろそろ年末商戦ですから、そろそろ年末だから何か買わなきゃいけないみたいな感じで、それがいいか悪いかは別として繰り返しなんです。だから1回それがペースに乗ってしまえば、割と簡単に毎年ちょっとバージョンアップしながらということなので。ただ、やっぱりなかなか人とお金の問題で、年間を通してやり続けるのが難しいというようなところでしょうね。

○**大炊委員** ほんとに今、店構えをしなくても商売ができる時代になってるところが一番のネックだと思いますね。

○**白土委員** ちなみに、例えば今、水の館のところで結構イベントが続いていると思うんですけど、やっぱりあれがあるときとないときと売り上げは違うんですか。

○**大炊委員** 全然違いますね。でも、そのイベントを打つためには、その前段階で、本当に何カ月も前から水面下での準備があって、労力としては結構なものです。

○**白土委員** いろんな調整がありますものね。

○**大炊委員** ありますからね。その人件費を計算してみたらさほどではないような。

○**白土委員** そんな感じですか。

○**大炊委員** ありますね。でも、やっぱり常にそこでは何かをやっているという状況にしないと、お客様から飽きられてしまうとか、刺激がないみたいな感じになってしまうので、わかってはいつつも繰り返しそれを毎年、毎年やっていくというようなことです。

○**熊田副委員長** なかなかまとまらないですけども、これは令和3年度までの新目標というところで、継続して取り組んでいただくというところには間違いないところなのかなと思います。

○**白土委員** 機能している11のほかにも、残りの9プラスアルファ1個で、こういったものを使ってもらいたいというようなことなんですかね、事務局としては。

○**事務局** 立場的には行政としては、大型店舗の誘致はもちろんあれですけども、もともと地域を支えてきた商店街で、個人店というのは、そういうのも踏まえると、個人だけで活性化していこう、もう1回お店を盛り上げようとするとなかなか難しいとなったときに、少しでも商店街単位を大きくするという形の捉え方も多分商業観光課のほうでしていると思うんですね。なので、どっちを強くというわけではないので、こういった形なのかなというところでは。

○**大炊委員** やらないよりはというところですね。

○**熊田副委員長** そうですね。固まりをつくって、何とかなくならないようにしなきゃいけないという感じですかね。

○**大炊委員** 今、直売所も結局同じで、個人の農家さんが1人で動いて販売するよりは、団体となって品物をまとめる形のお客様を呼ぶというのと同じような発想ではあると思います。

○**白土委員** やっぱりアイテム数を維持しませんとお客さんがなかなか来てくれませんかからね。

○**熊田副委員長** そう考えると補助額が少ないですね。何もできないじゃないですか、これでは。

○**大炊委員** そうですね。むしろこの500万円というのは一商店街に対する金額で、これを21で割るのかと思うと。

○**熊田副委員長** でも、それはヒアリングした結果というんだから、ニーズがないんでしょうね。

○**白土委員** そうでしょうね。ニーズがないというか、これをやりたいというのが思い浮かばないのかもしれませんが、自分たちの人数とか馬力ではというのがあってしょうね。

○大炊委員 自分たちの代でこの商店は終わりにするから、そこまでかける必要もないという。実際そのヒアリングの内容はわからないところなので。

○熊田副委員長 はい。ではこのあたりにして、裏面の2ページにもう2カ所ありますので、18番のほうから見ていきたいと思います。

「相互連携事業の取り組み数」というところで、「大学・企業と連携したまちづくりの推進」、これについて18番の下段のほうに、「大学・企業等との連携協定の締結数」にしましょうというところで、目標値が180件。「大学・企業との連携を強めることで、さまざまな世代が一緒にまちづくりに取り組み、にぎわいを創出するとともに、学生がまちづくりへ参加することで、我孫子市への興味や愛着を深めてもらう取り組みを強化する」といったことになっております。

この変更理由は前回の資料にも丁寧に書いてありますので、そのとおりでいいところですけども、改めましてここについては、所管課は企画課ですので、何か聞いておきたいところがあればということになります。

協定先という絞り方をすると、この件数はどれぐらいになるんですか。

○事務局 協定先でいいますと、リストで多いのが災害時における協定というところで、具体的な企業は手元の資料には把握していないのですが、恐らくさまざまな企業、大学や学校もありますけれども、あとは事業所とか、そういったところで非常に多くの協定を結んでおります。また、水道局のほうで災害時の応急復旧の形で企業と42件の協定を締結しているようです。

○事務局 災害関連で、主に建設、医療関係、そういったところが多くなってくると思います。

○熊田副委員長 「大学・企業等」というのがありますけれども、この「等」にはどういったところを想定しているんですか。

○事務局 恐らく、NPO団体だとかそういったところの団体を想定して「等」という形にしていると思います。

○熊田副委員長 これは、発信側は大学側でも企業側でも行政側でもということですか。

○事務局 そうですね。双方で協定を締結すれば、それを実績として出すという形です。

○熊田副委員長 協定を結ぶことによるお互いのメリットは、行政側は災害時というのはわかりやすいのですが、企業、大学側というのは。

○事務局 企業、大学側にとっても、やはり自治体と協定を結ぶという形を皮切りに、これ以外にもさまざまな結びつきを強めていきたいという思いがあるかと思います。あとは社会貢

献という観点でしょうか。

○**白土委員** そうですね。CSRの観点から、企業自体が地域の中での貢献ということをだんだん意識し始めているので、そこはいろんな形で新規協定というのが今増えているのだと思います。俗っぽくい方をすれば、逆にそういうことをやっているということが今企業評価自体にかかわってくるので、そういうような動きになってきているという影響もやはり企業サイドとしてはあるのではないかと思います。

○**熊田副委員長** 中には具体的な財産のやりとりもあったりするわけですか。予算を組んでみたいな話とか。

○**事務局** 予算を組んでというのは、今のところあまり聞かないですね。

○**熊田副委員長** じゃあ、発生時の後払いみたいな。

○**事務局** 先ほど言った災害などに関しては、多分優先的な着手とかが必要な、例えば緊急輸送路の整備などが何か起きたときに一番最初に取り組むべきことなので、そういったところに一番最初に力を入れて来てもらう。

ただ、今ちょうど話が出ている中では、まだ全然決まるあれではないですが、先ほど言ったCSRの観点から、企業で、例えば消防車の何かを活用して消防車のシャッターに地域のロゴを入れることによって企業側から何か物品を準備しますよとか、そういった話もちらほら出だしていますので、それが宣伝という扱いではなくて、地域の防災力を高めていくために私たちは我孫子市にそういった提案をしますよということで、そういう話も出だしているので、そうすると今まさに熊田さんがおっしゃったようなことが発生してくるのかなと思いますけれども、新たな動きとしてはそういうところですよ。

○**熊田副委員長** 災害時のライフラインのところは最低必須条件だとすると、その次の段階の、そっちを我々は多分見ていったほうがいいのかと思うわけです。そうすると、今言ったように企業側にもCSRでうちの会社頑張っていますというPRをより効果的にするための仕掛けというのは、今言われたような広告宣伝的なところで出てくる可能性がありますよね。

○**大炊委員** そういう協力している企業体に対する宣伝を市がやったりとか。

○**白土委員長** 例えば、ちょっと違うかもしれないですけど、ネーミング・ライツなんかだと単純にお金を取ってしまいますけれども、お金ではなくて物品の提供とか。

ネーミング・ライツとかそういうものにお金を出すということが、企業サイドの場合、逆にそれがどれだけ効果があるんだというような話になってしまう。

○**事務局** 広告宣伝費としてのあれだと、企業側としてはCSRという扱いにはならない可能

性が高いということですね。

○**白土委員長** 出てきてしまいますね。

○**大炊委員** 災害時に本当に不足した物品をいち早く、お金ではなくてまず物品ですよ。

○**白土委員** そうですね。今の話だと、何かがあったときにお互い助け合いましょうというのが一番。何がかかるかわかりませんがね。

○**大炊委員** こういうときに大学側の連携ということだと、マンパワーということになるのでしょうか。

○**事務局** そうですね。大学側だと、例えば学生の実習の受け入れ、インターンシップとかもありますけれども、そういったところでいくと、受け入れる役所としては当然マンパワー、お手伝いという意味での確保もありますし、大学側にすれば、そういう実習を知識を身につける場として役所が利用できる、という言い方はおかしいですが、活用場として使える。それはお互いにメリットがあるということですかね。

○**大炊委員** 実際、机上で勉強しているのと違って、現場に入って実体験することによって得られるものもあると。

○**事務局** そうですね。例えば市民活動が知りたければ、市民活動支援課で働けば、ある程度のことわかりますし、さまざまな部署で興味あるところで少し働けるというのは、学生にとっても大きいかなと思います。

○**熊田副委員長** こういうことを行政側がやっているというのは、企業はなかなか知り得ないですよ。

それから、さっき言ったCSR的な社会的貢献というのが前面に出過ぎてしまうと、そもそもの総合戦略の位置づけである我孫子の魅力とにぎわいを生むということから、ボランティア的なところに目が行きがちになるような気がしますね。もったいないというか。

まさにこういったところは、企業立地推進課か何かともっと密にやれると、別なアクションに起こせるような気がするなどちょっと思いました。

○**大炊委員** 学生がまちづくりに参加することで我孫子市への興味や愛着を深めてもらうということで、市内の学生が市内で就職をしてもらえるような方向性もあればいいのかなと思います。就職先が具体的にいいのか、企業の受け入れがあるのか、ということですがね。

○**白土委員** ただ、ここに勤めてくれたり定住してくれなくても、いる4年間でもいろんな活動に参加してくれれば——それが今、考え方で何かありましたね、「関係人口」でしたか。

○事務局 そうですね。

○白土委員 だから、住んでいる人が実際のそこの市の潜在能力といいますか、人口としてのパフォーマンス云々ではなくて、そういう考え方でいけば、千人単位でそういう人口が増えてくるわけですから。

協定の中で、例えばいろんなことをやってくれるという協定があるかどうかわかりませんが、変な話、ボランティアは積極的に参加しましょうとか、来週ある手賀沼のところの清掃にも、例えば協定を結んでいる学生がごそっと来てくれれば、それだけでもやっぱり、ということがあると思いますね。

○大炊委員 実際、都心のほうに働きに行かれています方でも、休日は我孫子のイベントに主体的になってやっていらっしゃる方たちも結構たくさんいらっしゃいますので、その意識を若いときから養って、持ってもらおうというのは必要なことですね。

○熊田副委員長 過去の事業内容、事業評価を見ると、ボランティア的なものが非常に多いですけども、そこに縛りがあるわけじゃないですよ。

○事務局 それはいいです。ただ、やりやすい形であると、やはり学生にイベントに来てもらったり、インターンシップに来てもらうとか、そういったところをまず手始めに、とっかかりとしてそういう部分が多くなってしまふのかなということですね。

○白土委員 お金が絡むと事業の遂行スピードが一気に押しますからね。

○熊田副委員長 ただ、最終的にはさっきの商店街の件もそうだし、こういったところで行政側がもう少し積極的にお金の使い道を使いやすくしてくれると、さっきの花屋さんの件じゃないですけど、商売にならないから撤退するという選択の前に、踏みとどまれる方法をいくつか提示したいですよ。

○大炊委員 そうですね。やっぱり市内にお花屋さんがないというのは本当に不便ですよ。

○白土委員 ただ、今おっしゃったように、活性化のところに問題点があつて、これはあくまでも統計上の問題なんですけれども、行政サイドの行政サービスの提供が大きければ大きいほど、立ち上げた事業が結構長続きしないんだそうです。まちおこしとかいろいろやっていますよね。10年ぐらい前からいろんな予算を落としてやっているんだそうですけれども、やっぱり成功しているところは、民間の方たちが自主的に時間はかかっても考えて練り上げて立ち上がっています。行政サイドが過度に関与していたところはやっぱり維持できなくなっている。日本開発銀行のそういうのをやっているセクションで聞いたことがあります。

○大炊委員 本気度の問題になってくるんですかね。

○**白土委員** そうです。最終的には、スタートアップの段階で行政が関与していたとしても、維持していくということはやっぱり民間の当事者たちなので、その意識というのがなかなか、今もいろんな農業ファンドの問題とかが出ていますけれども、そういうことはおっしゃっていました。

○**大炊委員** むしろスタートよりも維持する段階でのテコ入れのほうが。

○**白土委員** そうですね、外枠づくりというか、なるべく関与するところを少なくして、モチベーションを維持させるような施策を打っていったほうが、これだけ金を用意するからこうやってくれというよりも、ちょっとここのところを変えればどうなんだというようなところをちょっとずつ注入していくというような感じでうまくできれば。

○**大炊委員** 始めることは結構できるんですよね。維持することが非常に難しい。

○**白土委員** そうですね、維持することが非常に大変です。

○**事務局** ちょうどこの前の日曜日も、親水広場でチームラン「うなきちカップ」を実施し、今回で3回目を迎えました。このイベントは、我孫子駅北口にあるカスタムプロデュースという企業とコラボしてスポーツイベントをやろうという話がきっかけで始まりました。ゆくゆくは、協賛企業を増やして民間の手でできたらいいねといったところを目標として進めていましたが、軌道に乗せるのが難しく、大会は実施できるものの、やはり市が主体となって続けざるを得ない状況です。

市が主催で入ってしまうと、イベント内での営利活動ができなくなってしまいます。もともとはカスタムプロデュースが靴をはじめとしたスポーツグッズの販売など、走っている人たちに向けていろんな営業活動ができればということですからけれども、市が表立って主催になってしまうとそういったところもできない。そうすると、参加した人にとってもイベントが魅力的なものにならないといったところもあります。ただ、一民間事業者でできるかというとなかなかできないので、市としては、お手伝いしてもらえる企業を探して一つの大きな組織体として持続できるような支援ができればいいのですが。

○**白土委員** エコマラソンなんかは、実行委員会か何かがやっているんですね。

○**事務局** そうですね、実行委員会形式です。

○**白土委員** だから、やっぱりそういう形式にしないと、ああいう出店とかはできないんですよ。今年はそばをやったので、何となくお店があるなという感じになりましたけれども、確かにそばを一緒にやってなかったら寂しいなという感じがしますね。

○**大炊委員** 今年はそばも、お天気が悪かったなので、初日は一日降っていたので集客が半数以

下だったんです。2日目に何とかお昼ごろから雨が上がって、チームランがあったので逆にチームランのお客様が来てくれて、それはお互いに相乗効果だったんですが、あれがもし逆に両方とも晴天だったとき、チームランのお客様とうちのおそばのお客様で、駐車場の問題が出てきます。

○**白土委員** いっぱいになっちゃいますね。

○**大炊委員** そうですね。それを事故のないようにするには、警備の派遣の話がありましたけれども、警備の人を増やさなければいけない。素人が実際できるかという、危険度も伴うのでやっぱりプロの方を導入しなければいけないとなって、そのところの予算取りが非常に難しかったですね。主催がうちと直売所とそば団体の共催という形だったんですけれども、そば団体さんは、私たちはとにかく打っただけに専念したいというところで、最終的にうちのほうで考えなければいけなくなった経緯があって、お天気があれだったので大した問題もなかったんですけれども、お天気になったときに、事故を起こさずにうまく回すことに対して不安が起きてしまったので、そういう面での市からの補助があるといいねというふうな話はしました。イベントを組んでたくさん来てもらうのはありがたいのですが、そこに人が集まったときのいろんな警備問題が出てくるので、その不安を払拭できるような方法を考えていかなければいけないということですね。

○**白土委員** 駐車場の問題は、場所があそこですからね。

○**大炊委員** そうなんですよ。

○**白土委員** バードフェスティバルのように循環バスが運行できればいいんでしょうけれども、そういうわけにもいかないし。

でも、マラソン選手は駐車場が遠くても歩いて来るので、最初からないよと言っちゃえば、中途半端に使えるようにすると使うので。1キロ、2キロは平気でみんな歩きますからね。ただ、やっぱり本当にそばのイベントがないと、今年なんかは寂しい感じのイベントになってしまいましたよね。靴もカスタムさんがかわってしまいましたからね。今年は、またつくばマラソンと重なってしまいましたからね。

○**事務局** この時期は本当に重なってしまいますよね。

○**大炊委員** チームランで出店して下さった市内の飲食店さんが、そばがあったおかげで売れなかったと。

○**白土委員** 逆に。それも難しいですね。

○**大炊委員** そうなんですよ。飲食店さんからすると、そば祭りがなかったほうがいいみたい

なことで、両方よくするには難しいなど。

○事務局 そうですね。

○白土委員 結局、我々も食事を用意するんですよ、何があるかわからないから。だからみんな買い出しとか、ただ、やっぱり10とか20とか頼まなきゃいけないから事前にいろいろ手配するんですけど、それが何かがあるってわかれば、逆にいいのかもしれないし。全然話が飛んじゃいますけど。

○大炊委員 駐車場の問題と、飲食店さんがみんなウィンウィンで楽しめる方法があるといいですけれども。

○白土委員 確かに今、行政サイドの運営が続いているといいますけれども、イベントを切り離すのは難しいですね。

○事務局 そうですよ。

○白土委員 難しいと思います。

○熊田副委員長 逆に、市側で利益行為につながらなくても、そういったことをできるようにしていけないんですかね。

○白土委員 結構、法律の問題だけで。

○熊田副委員長 そう思います。ただ、考えようとかやり方で——僕は思ったんですけど、我孫子って保守的じゃないですか。

○事務局 そうですね。相当保守的です。

○熊田副委員長 ただ、こうやっているんなことをやろうと思ったときに、少し突飛なことしないと抜け出せないと思いますよ。

○事務局 そうですね。

○白土委員 ちょっと切り離れたところで。

○事務局 思い切ったことしないとだめじゃないですかね。

○熊田副委員長 ただ、その思い切りは我々民間企業にしたら結構日常茶飯事なので、何かそういうことができれば。例えば、さっきのカスタムプロデュースさんですけど、別にそこだけひいき目にしてもいいと思うんですよ、そういうイベントなんだから。だって協力してくれるんだもん、市がやりたいことに。

○事務局 そうですね。

○熊田副委員長 そういうふうにしていけばいいんじゃないのかな。

○事務局 確かに一步踏み出すというのは我孫子市には必要かなという気がしますね。

○白土委員 だと思えますね。

○大炊委員 そうですね。

○熊田副委員長 企画課なんかは絶対やりやすいと思えますよ。一番保守的であってはいけないんだから。

○事務局 そうなんですよ。何やるにしても多分そこがつかまってくるので。ただ、そこをやらないとこれからの時代は進まないんじゃないの、というところですよ。

○大炊委員 今年度、ガス展を親水広場のほうでやったんですけど、やっぱりああいう大きい企業体でないと仕切れないのかなというのが実際のところですね。

○白土委員 そうですね。だから東日本ガスさんなんかは毎年やっていますかね。取手でやって、こっちでやって、2カ所でやっていますし、ニチガスさんなんかもああいうのは得意ですからね。

○大炊委員 実際やっているところをうちも出店した中で見させてもらったんですけど、とにかく社員が多いので、とにかくぬかりがないという感じ。

○白土委員 それで、多分いろんなセクション、ほかからも人を呼んで来てやってもらっていると思うんですよ。メーカーから派遣してもらったりとか。

○大炊委員 ええ、その計画もものすごい緻密な感じで、無駄なく。

○熊田副委員長 うちの会社も、あそこまでの規模じゃないですけど、産業祭りというところで、やはり社員20人ぐらい出して子どもたちを遊ばせるんです。日当を払ったり、それまでの準備だったり、やっぱりお金がかかるんですよ。でも、そういったものに対してほとんど補助がないので、手弁当なんです。働き方改革という中で有休も消化させなければいけないのに、わざわざ休日出勤させている。だから、やろうとしていることと国の制度のアンマッチも実は結構あって、そういったところを行政側に解消してほしいですよ。

○大炊委員 中小企業にとって、あの働き方改革というのは、矛盾することを同時にやらされることですからね。効率よく働かせるのと、仕事は山ほどあるというのが。

○白土委員 それは我々も見習って。仕事の量は減らないですからね。生産性を上げると、今日の新聞にも出ていましたけれども、なかなか生産性って上がらないよなど。

○大炊委員 効率よくやろうとすると、やはり仕事が粗くなってしまって、失敗じゃないですけど、そういうことも出てきたりとか、事故のもとでもあることですね。

○熊田副委員長 18番に絡めて少し話が飛びましたけれども、19番についても軽く見ていきましょう。

「総合型地域スポーツクラブの大学生会員数」というところから、「新たに立ち上げる総合型地域スポーツクラブ数」と、実際にクラブの立ち上げを支援しますということで、向こう3年で1つつくりましょうというところです。これは何か、目論見みたいなものはあるんですか。

○事務局 学生・生徒が中心で加入してスポーツができるようなクラブを立ち上げようと、現在、所管課の文化・スポーツ課の課長と第三小学校の校長先生が協議を進めており、来年度以降、いろんな団体を巻き込んで、協議会形式をつくっていくということを検討しているようです。実際、クラブを完成させるのは、もしかしたら2年先くらいになってしまうかもしれませんが、さらに、川村学園女子大学と中央学院大学の先生や学生たちに協力してもらうというのは考えているようです。

○大炊委員 市民のあらゆる階層の人が参加できるような体育祭とか運動会みたいなものはないんですか。

○事務局 文化・スポーツ課の主催か後援で、そういう類のイベントがあったと思います。

○白土委員 市民運動会とかというものは、結構難しいですね。難しいというのは、例えば、私が前に勤めていた市には市民運動会があったんです。年々、参加者が少なくなってきちゃって、じゃあやめようかということで、やめたんです。場所の確保ですとか、コストの問題とか。

総合型地域スポーツクラブというのは、今、お話になったのは、何かをベースにするのか、すごく広い範囲でいろんなメニューを用意してという形にするのか、それはどっちに。

○事務局 基本的には、ある程度の範囲を対象地区として設定し、例えば自治会であったりとか、そこに属している学区の子供たち等を対象に、学校の体育館を活動場所にしましょうとか。種目というのは、そのクラブで何をやりたいかというのを自由に決めて、毎週1回なのか月に何回かなのか、その辺も全てクラブの中で決めてやっていきたいと思います。

スポーツをすることで体も精神も鍛えるといったところもあるのですが、もともとの目的は、地域コミュニティの醸成です。今、近所づき合いもほとんどない中で、スポーツを一緒にすることによってコミュニティの醸成を図っていくというのが、もともとの総合型地域スポーツクラブの意義というところがあります。そこで、地域で課題になっているものをみんなで解決しようとか、そういったところの足がかりとして、スポーツクラブをつくっているというのが取り組みの一つです。

今、既存のスポーツクラブは6つありますけれども、全部、高齢者のスポーツになってし

まっているみたいなんです。そうすると、若い子が入ろうとしても入る余地がないというところで、まずは、学生メインのクラブをつくってみて、そこから少し違う世代の人たちを呼んでみるという取り組みを、来年度以降やろうかというところで進めている事業です。

○**白土委員** 昔、地域でスポーツ少年団みたいなのがあったじゃないですか。あれの、もうちょっと世代を広げたイメージという感じですか。スポーツ少年団なので、大体小学生が中心になりますよね。

○**大炊委員** サッカーとか野球とか。

○**白土委員** いろいろ、やっているものは違うんでしょうけど。

○**事務局** これは老若男女、あらゆる世代が、そのチームに入れるように。その年代によってできるスポーツもいろいろあるから、結構難しいですけどね。

○**白土委員** 変わってきますからね。

これは、器をつくっていこうという発想だと思いますが、それをカバーする範囲というか、例えばその単位って、どのようなイメージなんですか。小学校の学区単位であるとか。

○**事務局** 恐らく学区単位ですかね。その活動する場所というのが、恐らく体育館になると思うんです。そうすると、おのずと、じゃあ学区でみたいなどころが多いかなと。

○**白土委員** 公共施設。そうすると、まあ小学校か中学校という範囲でしょうね。

○**事務局** そうですね。

○**大炊委員** そうすると、学生と市民をまとめるに当たって、核となる人って非常に大切になってきますね。

○**白土委員** そうですね。

○**事務局** なので、やっぱり学校の先生など、教育分野のところでは1人中心となれるような人がいないと、なかなか難しいかと思います。

○**白土委員** そうですね。事務局も置かなきゃいけないでしょうからね。

スポーツって、けがの問題がかかわるので、事務局がやっぱり大変ですよ。場合によっては、命にかかわることが発生する可能性もあるので。

○**大炊委員** 先ほど、コミュニティの醸成ということがありましたけれども、今、地域のコミュニティがなかなか図れないという中で、あくまでもコミュニケーションをとるための一つの手段というふうに、その目的をきちんと定めておけば。スポーツの技量を上げるとか、そういうところに主点を置いてしまうと、それこそ、けがとかそういう問題も出てくるんでしょうけれども、あくまでもこれはコミュニティなんだよということで、きちんと目的を捉え

て進めていけば、それも若干は回避できるのかなと思います。

○**白土委員** 自分が思っている以上に、年齢を重ねるとだんだん体が動かなくなって。イメージに体の動きがついていかなくて、けがをしてしまう。全くそんなに一生懸命やる気はないんだけど、ということがだんだん我々なんかは多くなってきちゃうので。自分のイメージでは、5メートルぐらい前を走っているはずなのになど。

○**大炊委員** そうすると、若い人とのギャップが出てきてしまうところがあるので、それをうまくカバーできる仕組みが欲しいですね。

○**白土委員** 多分そんなに運動強度を上げてやろうとは思っていないんですけども、けがしちゃうというのは、悲しいかな。

○**熊田副委員長** では、ここまでで議題の1番を終了したいと思います。

続いて、資料2の創生総合戦略の延長についてというところで、基本目標の一覧の資料が出ております。

これは、旧目標と新目標というところが中段の右ぐらいに出ていますので、その辺の数字目標で大きく変わっているといいますか、この数字でいいのかなという妥当性を見ていければいいのかなと思います。

○**白土委員** 数字の一環ですけども、どこをやるかわからないんですが、12月7日に「アド街ック天国」でやるじゃないですか。あれの効果測定みたいなものは何かできるんですかね。放送する前と放送した後で。

○**事務局** ランキングに出てくるところで、公共施設とか、来場者数をはかれるところがあれば、そういうのをビフォー・アフターという形で見ることはできると思います。

○**大炊委員** この現況値の内訳と目標値の内訳の数字を見てみると、集客を狙っている場所が、だんだん固まってきているのかなというふうに思います。

○**白土委員** そうですね。

○**大炊委員** やっぱり、親水広場の周辺に集客を図ろうと、現在もそうなんですけれども、そこを集客の核と市は捉えているところはありますよね。

○**事務局** そうですね。大炊さんに農産物直売所に入っていただいていますし、じゃぶじゃぶ池の整備や駐車場も拡幅をしてというところがあるので、あそこは本当に大きな一つの集客装置というところで捉えています。

そこから遊歩道で、印西側の水生植物園や市民農園跡地とか、あの辺もきちんと人を呼び込めるような一体的なつくりになれば一番いいんですけど、今はそういう状況にはできてい

ません。

○**白土委員** こっち側にサイクリングロードを整備するというのは、まだないですね。

○**事務局** まだないですね、我孫子側は。

○**白土委員** だから、せめて五本松公園とキャンプ場ぐらいまで、それと手賀沼公園ぐらいまでかな。そこまでできればいいですね。

パークランってご存じですか。

○**事務局** パークラン、私は初耳です。

○**白土委員** うちのパートさんでこれを一生懸命やっている人がいて、手賀沼公園をパークランの施設の一つにできないかという話があつて。

○**大炊委員** パークというのは、公園という意味ですか。

○**白土委員** 公園です。パークランの設定コースがあつて、いろんなところにあるらしいんですけれども、そこへ行って、走って、何か競技みたいなものをやるとか、やらないとかあるらしくて。何か月前に聞いたから私も忘れちゃったんですけど、詳しく聞いてきます。

○**事務局** その方がおっしゃるということは、そういう舞台になり得るということなんですかね。

○**白土委員** 可能性としてはあり得ると。1周1キロぐらいの設定で、この間のうなぎちカップのコースみたいな設定で、それをパークランの設備として登録しておいて、それでそこは何かあるみたいなんですね。全国にそういうものがあるらしくて、そんなことを言っていた。

○**大炊委員** 気軽に休日にそこで走れるというような。

○**白土委員** そうですね。じゃあ、ちょっとその辺りを走ろうかなと。

キャンプ場は離れていますけど、サイクリングとかで行く手段があれば、あそこもありかなと。

○**大炊委員** 手賀沼のあそこ全てを、五本松公園まで整備をして。

○**白土委員** そうですね。五本松公園から手賀沼公園あたりまで整備してくれるなら。

○**事務局** 人が集まるスポットとするようにしておけばいいと。

○**大炊委員** 点在しちゃっているから。間に私有地が入っていたりもするわけですね。

○**白土委員** そうすれば、変な話ですけど、もしかしたら農産物直売所のところもなかなかうまくいかないから、あそこにサイクリングのベースをつくるとか。水の館でもシャワーが浴びられますけれども、サイクリングとランニングのベースをつくるとかすれば、別の楽しみもできるのかなと。

○大炊委員 あの一帯をやはり一日いろいろなことで過ごせるように持っていかないと、水の館だけでは満足しきれないところもあったりするので、あらゆる階層の人が寄れる場所にしていかないと。

あと、冬場の問題もありますよね。季節のいいときには放っておいても来るんだけど、冬場はどうするのかと。

○熊田副委員長 手賀沼のサイゼリヤ側のほうで、ヒマワリ園を利用した巨大迷路があるんですよ。

○事務局 ああ、やっていますね。通り沿いの右手側で、ヒマワリの時期に。

○熊田副委員長 あんなのを、もっところら側に持ってきちゃうとか。

○大炊委員 市民農園のあたりを何かしようというお考えはあるわけですよね。

○事務局 そうですね。今、菜の花やコスモスなどの景観作物を植えてはいるのですが、なかなかそれだと人が集まりづらいというところもあって。

○白土委員 結構、一瞬ですからね。

○大炊委員 そうなんですよね。

○事務局 北海道のラベンダー畑とか、ああいうふうに見渡す限りとかができればいいんですけども。

○大炊委員 面積の問題はありますね。

○白土委員 ありますからね。

○熊田副委員長 誰かが言っていたけど、サバイバルゲームを持ってくればすぐですね。

○大炊委員 アスレチックとか。

○熊田副委員長 五本松公園に。

○白土委員 サバイバルなんかはどうかね。

○事務局 印西にはありますね。結構人気があるようです。

○白土委員 そうみたいですよね。よくわかりませんが、やっぱりうらやましいですよ。

○熊田副委員長 菜の花よりいいんじゃないのかな。

○白土委員 行政としては、それはなかなか持ち出しづらいですよね。

○事務局 そうですね。

○白土委員 この間、子供が撃たれちゃったとか、あんな事件もあったからね。ああいうものを使うわけですよね、サバイバルゲームって。

- 事務局 そうですね。モデルガンを使ってやるので。
- 大炊委員 だから、全部を菜の花だけじゃなくて、菜の花が終わって次の時期には、流れるに季節ごとに段階を踏んで花を楽しめるようにするには、かなり広い面積が必要ですからね。
- 熊田副委員長 必要でしょうね。
- 事務局 本当は今年度、市民農園跡地でそばを植える計画があり、景観作物を整備する予算にそばを植える費用も含んでいたのですが、残念ながら着手できなかったようです。そばは白い花がきれいで、春・秋と1年に2回できます。そばを収穫すれば、そば祭りとか、そば打ちとかもできますし、よく枕とかにそばの実なんかがありますし、ある程度ストーリーができて上がるねみたいな話はしていたんです。それが来年、実際できるかどうか。こちらとしてはやってもらいたいんですけども。
- 大炊委員 春と秋にそばをやるのであれば、そば打ち道場じゃないけれども、そば打ちを体験できる施設があるとさらにいいですね。
- 事務局 そうですね。ちょっとした小屋みたいなものをつくって。新そばまつりで、打っている人に来てもらって、教室をやってもらったり。
- 熊田副委員長 あそこは、いずれにしてもそういうのを何か考えたら、やっぱり規制があるわけでしょう。
- 事務局 やはり、農地であるというのが一番大きいですね。そういう建物は建てられないというのと、高い木もだめなんですよ。影ができてしまうと作物ができないということで、高木すらだめだということ。
- 熊田副委員長 あそこは、卵屋さんとか、宅配のクロネコヤマトとか、あと釣り堀か。
- 事務局 ああ、ありますね、釣り堀。
- 熊田副委員長 あれは何なんですかね。
- 事務局 もしかしたら用途が違うのかもしれないですね。農地ではないからできているのだと思いますけれども。
- 大炊委員 あとは、農地であっても建てられるというと、作業場というか、農機具を置く施設とか。
- 事務局 そうですね。そこを持っている農家さんが何かをやるというのだと、多少は規制も緩いらしいです。ただ、あちらの農家さんのほうでは、自分たちでやるつもりはないので、市に土地を貸すから市でやってほしいと。ただ、結局、市ができることという制限がかかってしまいます。

○**白土委員** 限界がありますからね。

○**事務局** そうなんですよ。その辺が難しいところです。

○**大炊委員** 実際に栽培するとなると、農家をお願いして、委託してやってもらうとか。

○**事務局** そうです。まさに景観作物の栽培は農地組合で、その地権者さんが何人か集まったの組合ですけれども、そちらに委託している形になるので、農地という制限がありながらも何かできないかというのは、模索はしているのですが。

○**熊田副委員長** そういう規制がなければ、やりたいことはいっぱいできるよね。

○**事務局** そうなんですよ。

○**大炊委員** 農振地域ですよ、あそこは。

○**事務局** はい、一番外すのが困難な農地です。

○**大炊委員** 農地以外は使えないという形になりますよね。

○**白土委員** よほどパワーをかけないと無理ですね。それでも、やっぱり生産しなくちゃいけないですもんね。補助金を返還しないと、多分外せないでしょう。

○**熊田副委員長** いつまでも、親の言うことを聞いていちゃいけないんじゃないですかね。

○**事務局** やっぱり、そこに行き着きますね。

○**大炊委員** おとなしくしていたら、何もできない。

○**熊田副委員長** そろそろ自立しないとね。

冗談はさておき、基本目標の1と2についての新目標値は、ここに各所管課の検討している数字が出ていますので、こういったところで確認はよろしいですかね。

○**大炊委員** はい。

○**熊田副委員長** そうすると、これで議題の1と2を網羅した形にはなりますけれども、「その他」、1月下旬のほうに話を進めてもよろしいですか。

○**事務局** はい、お願いします。

○**熊田副委員長** そうすると、我々のグループは基本目標1と2を担当というところで、あと、山内さんと門脇さんがいるんですけども、どうでしょう。市長に具体的に何か進言といいますか、質疑応答的なところで、懇談会というような位置づけにはなるんですけども、何か準備をしていただけますか。大炊さんもせっかくなので、準備していただけるかなと思いますが、どうですか。

○**大炊委員** 現場からの何か。

○**熊田副委員長** そうですね。答えやすい内容といいますか、1グループ20分ぐらいですか

ね、多分。

○事務局 30分ぐらいとれると思います。市長との意見交換会は、各グループで30分ずつお話しただいて、あとは市長からの話を30分と計算して、1時間半を想定しています。

○熊田副委員長 であれば、基本目標の3と4、1と2とで半分ずつぐらい考えたとして、45分ぐらいですか。その中で。

そうそう、その話の前に、ちょっとごめんなさい。一つだけお伺いしたかったんですけど、大炊さん、先日のJBFはどうでしたか。

○大炊委員 そうですね、非常に晴天に恵まれたというところで。

うちのほうの直売所はどうだったかということですか。

○熊田副委員長 そうですね。今年はどんな雰囲気だったのかなと。私、行けなかったんですよ、残念ながら。

○大炊委員 まず、いらっしゃる方は、外のイベント目的ですので、そのついでに寄られるということですよ。ですので、やっぱり、たくさんお客様は入るんですけども、農産物よりは食べ物関係とか、あとは「ちょっと変わったものがあるね」ぐらいな感じで、客単価は非常に少なかったです。通常ですと1,200円前後の客単価ですけども、四、五百円を切ってしまったりはしましたね。でも、ここに直売所があるんだよというのは、周知ができていたのかなというところです。

あと、意外とレストランが、2日間ですが300人超えて、もちろん外にも飲食スペースはあるんですけども、許可の問題があって、焼きそばとかそういうものしか置いていないせいで、ご飯ものを食べたい方が殺到されて。あと、ソフトクリーム関係も出たというところですよ。

レストラン側も予想以上の集客で、現場が大変だったというところはありませんね。2年続けて、3年目ですので、バードの傾向がわかってきたところなので、来年はそれに向けて人をどこに厚くしたほうがいいのかというのがわかったところですね。そのときに、やはり我孫子ならではのお土産を用意するのが一番いいんじゃないかなと思いました。

○白土委員 確かにそうだと思いますね。これが売りだ、みたいな感じでね。

○大炊委員 そうなんです。今、お土産もそうですけど、飲食でも、我孫子でなければいけないものを、この1年、2年あたりでつくり出していこうというような動きは出ています。こっちが狙ったからといって、必ずお客様が選んでくれるかどうかはわからないことですけども、何もしないよりはというところで。

- 熊田副委員長 じゃあ、まずまずというところで。
- 大炊委員 そうですね。
- 白土委員 来ていた人は、多分偏っているんだと思うんですよ。基本的にはあれに興味がある人が来ていますので。私、去年行けなかったのが初めて行ったんですけども、結構な人数でしたね。
- 熊田副委員長 そうですよ。渋滞していたし。
- 白土委員 朝一で行こうと思っていたので、朝一に来て、30分ぐらい前にバスに並んでいたんですけど、始まるころにはもう結構長蛇の列でした。午前中一番で行って、お昼前には帰ったんですけど、やっぱり随分にぎわっていましたね。
- 大炊委員 滞在型ですからね、あのイベントは。
- 白土委員 そうですね。ぐるっと見て、博物館を見て、中をぐるっと回って。最後、飲食のところは、何となく端っこで狭かったかな。
- 大炊委員 そこなんですよ。通常だとあの規模でいいんですけども、爆発したときの客席がね。席数が少なくて、順番待ちでやるので、ウェイティングをかけるんですけども、そのウェイティングの人数を見て「ああ、もういいや」と帰られてしまう。あと、あの倍ぐらい席数があるといいのになという現場からの声はあります。
- 白土委員 ただ、ふだんは要らないですね、そんなに。
- 大炊委員 そうなんですよ。
- 白土委員 あの天気だったら、前のところ、テラスでちょっとうまくできるとか。逆に今週の天気なら、それは無理ですよ。
- 大炊委員 お天気とイベントのあるなしで、本当にアップダウンが非常に大きいですよ。
- 白土委員 そうですよ。あのときは本当に天気がよかったから。
- 大炊委員 あと、店内のおにぎりがたくさん売れたという。外で座る場所がなかったりすると、中に来てちょっと休憩とか、2階、3階でお弁当を買ったり、おにぎりを買った人が、2階、3階のフリースペースでというのはありますね。
- 熊田副委員長 では、市長との意見交換会では、それぞれ注力したいところ、もしくは得意なところについての問いかけ等、意見交換したい内容を1つ、2つぐらいご用意していたでいて、当日は門脇さんが来られるかもしれないですし、山内さんが来られるかもしれないですし、どういった人数構成になるかわからないところがあります。今までを見ていると、基本的に全員参加という形になるのかと思います。

○事務局 はい。

○熊田副委員長 であれば、それぞれ皆さん、1つ、2つぐらいご用意していただいて、それは当日、時間の都合でお伝えできるかどうかはわからないけれども、というところでしょうかね、今日のところは。

○事務局 そうですね。

○大炊委員 当日、市長がお見えになる時間より前倒して集まって、優先順位を決めるとか、そういうことは。

○熊田副委員長 そうですね、それもいいかもしれないですね。

○事務局 この会議は毎回2時間枠をとっていますけれども、最初の30分で各班の意見調整とか集約とかを確認していただいて、残りの時間で移動してもらって、市長との意見交換に1時間半を費やす形で合計2時間というところは、もしよろしければそういう段取りも組めますので。

○熊田副委員長 それができるようであれば、そのほうがスムーズに。

○事務局 ですよ。山内さんや門脇さんがいらしたときに、やっぱり全員で、ある程度の確認ができたほうがよろしいかと思っております。

○白土委員 ちなみに、手賀沼公園の例の通りって、今、どんな感じになっているんですか。

○事務局 今の公園坂のほうですかね。あちらについては、手賀沼（公園）・久寺家線、今はとまっているところですが、あちらの整備が完了次第、公園坂のほうに着手するという予定です。

○白土委員 手賀沼（公園）・久寺家線のほうは、もう少しと市長が言っていたような気がしたんですが。

○事務局 お話ししたと思っておりますけれども、一番下に、まだ最終地権者のお店がありますので、そこの方との交渉段階というところです。目安としては、今年度中に最終的に方向性が決まって、来年度には用地の取得について何らかの形が出るというイメージです。

○白土委員 先にあそこなのかなという気がして。

○事務局 そうなんですよね。やっぱり、今、玄関として捉えているところから手賀沼公園までのという一大事業としては、間違いなく捉えていますので。

○大炊委員 あその渋滞は、結構おっくうになりますよね。

○白土委員 ええ。あそこを整備するとどうしても駅から来るので、導入路としてはあそこになるでしょうし、現実的には、あそこからぐるっと水の館のほうに回すのが、つくりとして

は良いかな。

○事務局 理想的に描かれる案ですよ。

○白土委員 そうですね。多分そういうルートでバスを回す。恐らく上を回すと、なかなか。直接そこへ行くしかなくなってしまうから、行くときはこっちで。

○大炊委員 それで、下を通りながら、文学館とかいろいろな文化施設に寄って、一つの観光コースができ上がるわけですよ。

○白土委員 そうです。場合によっては、あそこのおりていくところが整備できれば、おりながら行くか、上りながら帰ってくるのも大変でしょうから、おりながら行って、バス停を配置しておけばね。

○大炊委員 帰りはまた違ったコースを。

○白土委員 そうですね。

○大炊委員 我孫子って、これといった産業が少ない中では、やっぱり観光という視点で進めたほうが良いような感じはします。

○白土委員 多分そうだと思いますね。観光資源として。

○大炊委員 手賀沼は外せない部分ですよ。あの景観のよさというのは。

○白土委員 はい。さっき「アド街ック天国」の話をしましたけど、メディアで取り上げられると反響が全然違うんですよ。

○大炊委員 そのときに、じゃあ我孫子に行ってみようとなったときに、受け入れ体制がきちんとできていないと、何だということになりますからね。

○事務局 一回行って、終わっちゃいますからね。

○大炊委員 そうなんですよ。一回それで口コミで広がってしまうと、しばらく、それを盛り返すのにとても大変なことになるので。

○白土委員 本当は、12月というタイミングは、あまりよろしくないんですけどね。手賀沼から風が吹き上げて寒いから。

○大炊委員 これから花が咲いていい季節になったときだといいいんですけどね。

○事務局 どこが取り上げられるかにもよりますけど。

○大炊委員 でも、来年はオリ・パラの年になりますので、それに向けて知名度を上げるというのは非常に効果的だと思います。

○熊田副委員長 銅像はいつ完成するんですしたっけ。

○事務局 銅像ですか。

- 熊田副委員長 嘉納治五郎の。
- 事務局 まだ聞かされていないですね。
- 白土委員 あの下を聖火ランナーが通るとか通らないとか、言っていましたよね。
- 事務局 はい。そういう動きも聞いたようなことはありますけれども、具体的には公表されていないので、私たちもわかりません。
- 大炊委員 公表されていないんですね。
- 事務局 はい、そうなんです。
- 熊田副委員長 何かどこかでそんな話を。いいタイミングだと思うんですけどね。
- 事務局 嘉納治五郎は有名ですからね。
- 白土委員 ただ、若い子に聞いたら、「誰、それ」って。
- 大炊委員 知らない人が多いですよ。
- 白土委員 それも、30代ですよ。「え、知らないの?」という感じですね。「そこからかい?」って、お店の女の子に説明して。
- 大炊委員 やっぱ柔道に興味のある人じゃないと、なかなかあれかもしれない。
- 白土委員 そうかもしれませんね。夏目漱石の「三四郎」って嘉納治五郎をモデルに。それであんなに。
- 大炊委員 ちょっとマニアックですよ、やっぱ。
- 白土委員 そうですね。
- 事務局 そういう柔道系は、どちらかというと国内よりも海外のほうで偉人化されていますから。
- 白土委員 そうでしょうね。やっぱ柔道を世界的に広げた人ですから。日本人にとっては当たり前のようにあったので。何でこんなものを広げたんだというのがあるでしょうし。講道館という名前も、講道館杯があるから知っていますけど、それが嘉納治五郎のあれだというのはあまり。
- 大炊委員 そう考えると、我孫子には、いろいろな偉業を達成した方とか、文化人とか、人の財産みたいなものがあるので、それをうまく使っていきたいところですね。
- 白土委員 本音のことを言うと、自分で歩いて行ってみようと思ったんですよ。ところが、お恥ずかしい話ですけど、何も持たずに行ったので、たどり着けなかった。ところどころに札が出ているんですよ。
- というのは、大炊さんのところも出たのですが、楚人冠記念館がうちの冊子に出たので、

これは一応行っておかなきゃいけないなと思ひまして。あそこ、車がとめられないじゃないですか。それで、歩いて行って、その次に、何か出ているから、行こうと思ったら、途中でわからなくなっちゃって、これはたどり着けないなと思ひました。

○大炊委員 道するべ的なものが全然整備されていない。

○白土委員 整備されていないですね。駅に観光案内所があるわけじゃないので、実際行こうと思っても、多分たどり着かないと思ひます。

○大炊委員 アビシルベが一応、観光案内所のかわりですよ。

○白土委員 案内所なんですけど。ただ、駅をおりたときに、アビシルベがあるという存在がわからない。

○事務局 仮にアビシルベと聞いたとしても、歩いて行って一発目でたどり着けるかという、難しい。

○白土委員 ちょっと厳しいと思ひますね。

○事務局 実際、わからないと、場所の電話を受けたことがあります。

○大炊委員 アビシルベは、我孫子の人は観光案内所ってわかりますけれども、ほかから来た人は、アビシルベが観光案内所と結びつかない可能性もあるので、もろに観光案内所でも。

○白土委員 そうなんです。それはちょっと充実させればいいと思ひます。基本的に調べて来る人はいないので。逆に調べてくる人は、多分好きで来ていると思ひます。そうじゃない人は、とりあえず行ってみようと思ひて、来て、「なるほど、なるほど、わかるじゃん」とか、「こっちに行けばいいんだな」というのは、まあ難しいかなという感じはしましたね。

○大炊委員 あと、聞いた話ですが、アビシルベに入っている人も、中にいる人がただ黙っている。

○白土委員 それはそのとおりです。無反応です。

○大炊委員 その方が何を求めて来ているのか、ちょっと声かけをしてもらおうと、もっと発展するのに、ただ、そこにいろんなふるさと産品のものは売っていて、それを買おうと思えば、そのレジとかはやってくれるけど、それ以外、一切言葉を発しないから、本当に意味があるんだろうかというようなことです。

人が来たら、例えば「いらっしやいませ。きょうは何のご用でしょうか」と言ひて、「こういうことをしようと思ひただけだ」「じゃあ、それだったらこうこう……」と、そういうような案内をもっと積極的に。

○事務局 おもてなし感が。

○大炊委員 おもてなし感がないんですね。ただ事務的に、「これ、お願いします」って言えば、「はい、はい」と。ただ「ありがとうございました」ぐらいな感じで。

○事務局 なるほど。同じ指定管理者で、もう10年近くは続いているんですけどね。逆に、それでなれ過ぎちゃって、少しなあなあになってしまっている部分はあるのかもしれないですね。

○大炊委員 実はきのう、ディズニーランドで、ディズニーアカデミーというおもてなしの講座があったんです。ことし、たまたま県のほうでそういう講座の準備をしてくれて、申し込んだら申し込めたので、うちの会社の3人で行ってきたところ、接客・接遇の講習だったんですね。

ディズニーランドではこういうようなおもてなしのやり方をしているということで、普通は、「いらっしゃいませ」という言葉かけなんだけれども、「いらっしゃいませ」だと、そこで言葉がとまってしまいますと。言葉をお互いにリレーするためには、そういう言葉かけではなく、「こんにちは」とか「おはようございます」と言うと、必ず「おはようございます」、「こんにちは」って言葉が返ってくる。そうすると、その後「きょうはどちらからいらっしゃいました？」と、次の言葉がついてくるので、「いらっしゃいませ」よりは、そういう挨拶の言葉でおもてなしをしたほうがいいですよ。例えばの話ですけども。

だから、そのアビシルベの方たちも、お客様が来たときに、「こんにちは。きょうはどちらからですか」というようなところから行くと、話が発展して行って、お客様のニーズがつかめて、もっと我孫子をアピールできるのではないかなと。

もちろん、アビシルベの方もお2人ほど行ってはいらっしゃいました。すぐにアビシルベに入ってきたお客様に積極的に声かけするかどうかは、ちょっとわからないところではありますけれども。

○事務局 会話のキャッチボールができるように、きちんと。

○大炊委員 そうなんですよ。

○白土委員 観光ボランティアの方って、いらっしゃるんですか。

○事務局 観光ボランティアですか。団体の中で、白樺派とか文人たちの史跡を紹介するようなガイドクラブみたいなものはあるんです。たしか1回当たり2,000円を資料代としてもらって実施していますね。観光ボランティアという形で、純粋にお金なしでといったところだと、なかったと思います。

○大炊委員 アビシルベに行くと、我孫子全体のことがわかるコンシェルジュ的な方がいて、

あらゆることの質問に答えられるような人が1人いてくださるだけでも、ただグッズの販売で終わらないで。そういう方向にしないと、我孫子全体をあそこでやっぱりわかりたい。まず、そこでわからないと動きようがないですからね。

○**白土委員** ないですからね、おりた瞬間に。

○**大炊委員** 結局、行き着かなかつたり。

○**白土委員** 行き着かなくなってしまうんですよ。それはやっぱり多少思いましたね。毎日来ていても行き着かないんだから、初めて来た人は絶対行き着かないだろうなと思いました。

○**大炊委員** いろんなパンフレットはあるんですけども、自分が本当に行こうと思ったところのパンフレットがどこにあるのかわからないんですよ。だから、まずそのコンシェルジュ的な方に、「私はこういうところに行きたいんだけど、どの地図を持っていったほうがいいですか」とか、そういうことがすぐに解決できるような方向にしていかないと、あそこは本当に、ただグッズ販売のお店になってしまうんじゃないかと。もったいないですものね。

○**事務局** 指定管理者としては、きちんとその案内も当然仕事としてはお願いをしている部分ではありますけれども、そこがうまくいっていないというところですよ。

○**大炊委員** 現場までそれがおりていないのではないかと思います。

○**事務局** 定期的にまち歩きイベントなんかも、アビシルベ主催という形で実施したりもしてはいるんですけどね。

○**大炊委員** イベントを企画してやることも大切ですけども、日常の来店した人のフォローも、より大事なのではないかなと思います。

○**事務局** そうですよ、日常的に。しかも、また12月7日の「アド街」を見て来ましたが、なおさらそこで訪れてくれた人に。

○**大炊委員** 多いですよ。

○**白土委員** 人形の館が出るって、たまたまこの前、うなぎちの日に国際交流協会のあれがあって、終わってからそっちに出ていたんですけど、隣に座っていて、「出るのを見てください」とか言っていたんですけど、人形の館ってどこにあるのかなと思ったんです。ご存じですか。

○**大炊委員** あるんですか。全然知らないです。

○**熊田副委員長** 人形の館？ そんなのがあるんですか。

○**白土委員** あるみたいですよ、人形の館。何だろうな。

○**事務局** 多分、小耳に挟んだ話なので本当かどうかわからないですけど、たしかシティアか

アクア・レジデンスか、我孫子駅前のほうのマンションの一室でやっているというのは聞いたことがあるんです。そういうのが好きな人が、各国の人形とかを並べて。

○**白土委員** 知らないなと思って。

○**事務局** 多分、ご存じないと思います。私も聞きかじったくらいで。

○**大炊委員** じゃあ、民間の施設ということですよ。

○**事務局** 普通にそこに住んでいる人が、人形好きが高じて、みんなに見てもらいたいというところだったと思います。私も商業観光課にいたときに、四、五年前にそんなのがあると聞いた程度です。

○**大炊委員** せっかくの財産がきちんとアピールできていないのかなという感じですね。

○**白土委員** そうですね。実は私、佐倉というところに住んでいますけれども、佐倉もそうだったんですよ。例えば武家屋敷とか、ちょっと質が違いますけれども、文学ではなくてお城があった関係で、その関係の施設だとか、あとはお城へ上がっていく坂などがあったんですけど、やっぱり全然人が来ていなかったわけです。ビジュアル的にできるものとかをいろいろやったら、多少今、土日とかは。あとは、もともと順天堂とかがあったりするので。

○**大炊委員** 我孫子の観光のマップを、逆に入り口にバーンと置いて、ここは見どころですみたいなものを。

○**熊田副委員長** 大炊さん、ありますよ。ここでしょう。

○**大炊委員** そうそう。こういうようなもっと簡単なものが駅前にあって、詳しくはアビシルベへどうぞみたいな。

○**白土委員** そうですね。1個立てればね。

○**事務局** そうです。多分、駅をおりて南口のほうは、たしか置いてあると思うんです。ただ、目立たないですね。おりて、NewDaysがあるじゃないですか。左側のホームと隔てている壁というんですか。

○**白土委員** ああ、壁のところにありますね。

○**事務局** 普通、みんな、駅でおりたら右に行くじゃないですか。ロータリーのほうとか。

○**白土委員** だから、白樺派の人たちみたいな、あれが目に入るんですよ。あそこに置いてあれば一番。

○**事務局** そうですね。一番良いですね。

○**大炊委員** まず、簡単な案内図があって、本当にここに行くためにはどうしたらいいのかという、アビシルベに行って、こういうマップをもらってと。

- 白土委員** 向こうへどうぞ、みたいなね。
- 事務局** そうですね。左100メートルとか、そんな感じで。
- 大炊委員** アビシルベは本当に脇になっちゃっているから、駅から見てわからない。
- 白土委員** わからないですね。
- 事務局** 死角になってしまっているのです。
- 大炊委員** 本当は、アビシルベは市外から来た方たちを案内する場所だと思うんですよ。
- 白土委員** 本当にそれは、あの看板をこっちに置きかえるだけでも、随分違うかもしれないですね、確かに。
- 大炊委員** 同じものをもう一つ、こっちに。
- 事務局** 目線がどうしても左には行かないですよ。
- 白土委員** どうしても左は見ないですね。
- 大炊委員** そうですね。
- 白土委員** 確かに、おっしゃられたように、あります。
- 大炊委員** 大抵、案内所って右側にあるのかもしれないですね。
- 熊田副委員長** あそこは本屋さんもなくなってしまいましたものね。なくなったというか、ファミリーマートと。
- 大炊委員** 正面の？
- 白土委員** 2階になっちゃったんです。
- 熊田副委員長** 目立たなくなっちゃって。
- 大炊委員** おっくうですね、2階まで行かなきゃいけないというのは。
- 熊田副委員長** 逆に、2階が本屋だと思わないですよ。
- 白土委員** 思わないですね。
- 熊田副委員長** だから、「るるぶ」なんかを探しに行こうとしても、そういうところがないですね。
- 大炊委員** アビシルベに「るるぶ」を置いたらいい。
- 白土委員** あれは、地域版ってつくるんじゃないですか。
- 事務局** つくらなかったんですよ。結構、周りの取手とか印西とかはつくっていて、やっぱり聞くと、そのときの国の補助金を使ったということがあったんですよ。なので、我孫子もそういう補助金のメニューが出たら、すぐにつくろふみたいな話にはなっているんですけども、ちょっと出おくれ感があります。みんな、「るるぶ」とか「まっぷる」とか、やっぱりつく

っています。あれを見ると、すごく今風というか、おもしろそうに書いてありますものね。

○**白土委員** 今風にビジュアルがわかりやすくできているので、これ、本当は違うだろうと思っても、割によくできていて。

○**大炊委員** 写真のほうができ過ぎちゃって。

○**事務局** そうなんですよね。どうしても役所って、ああいうマップをつくると、おかたい感じになっちゃうので。

○**熊田副委員長** スマホとかのアプリをつくれればいいんですよ。

○**事務局** そうですね。

○**大炊委員** 本当に、これから我孫子を観光で推していくというんでしたら、まず導入の部分でしっかりとキャッチできるようにしないと、どこに行ってもいいかわからないですよ。

○**白土委員** そうなんですよね。意外と、変な話ですけども、電車で一本で来られるじゃないですか。あんまり近過ぎると、どこかに出かけた気分にならないんですよ。三、四十分乗るので、ちょうど出かけた気分になるので。

○**事務局** ちょっと小旅行的な感じになりますよね。

○**白土委員** そうそう、小旅行的な感じで。

○**大炊委員** 本当に不思議なんですよね。近くの人って、あそこに遊びに来ないんですって。遊んでいる方に「きょう、どちらからいらっしゃいましたか」と聞くと、「船橋です」とか「松戸です」とかと言って、本当に近場の人は来ないですよ。やっぱり非日常を味わいにいらっしゃるので。

○**事務局** そうです。気分転換に行くわけですからね。

○**大炊委員** やっぱり住んでいるところから若干離れないと、気分転換にならないですよものね。

○**白土委員** そうすると、逆算すると、結構三、四十分だと、割とたくさん来ているから。

○**大炊委員** うちにいらっしゃるお客様の中でも、やっぱり「松戸です」、「船橋です」、「鎌ヶ谷です」って。

○**白土委員** 余談なんですけれども、秘書広報か何かでパンフレットを、小さいのと大きいのをつくっていないですか。

○**事務局** 「住み替え」のですか。

○**白土委員** そう、「住み替え」のと、こっちは何だっけ、あひ何とか。

○**事務局** ABI ROAD（あびろーど）ですかね。

○**白土委員** 結構、1カ月たっていないんですけど、100部はなくなっちゃって。

○事務局 本当ですか。

○大炊委員 ABI ROADは、なくなるのが早いです。

○白土委員 追加で100部。

○事務局 ありがとうございます。

○大炊委員 専門家の方も、あれはとってもよくできていて、いいというふうに。わかりやすいし。

○事務局 「るるぶ」とか「まっぷる」とかと同じように、観光客向けに「ことりっぷ」という冊子があるんですよ。ちょっとおしゃれな感じで、若い女性が手に取るようにというコンセプトでつくっているようで、それを発行している会社にお願ひして、そういうテイストでつくってもらっている冊子なんです。あのピンク色の。なので、比較的手に取りやすいというところはあるんですけど。

○白土委員 ATMコーナーの出口に置いてあるんですけども、順調です。

○事務局 ありがとうございます。

○白土委員 「住み替えナビ」は、なかなか。最初2つ並べていて、どっちがなくなるかなというところでやっていたら、圧倒的にあっちのほうが先になくなるんですね。「住み替えナビ」は、なかなかなくなるらない。

○大炊委員 銀行を利用されている方は、住み替えの必要もないからだと思うんですね。

○事務局 恐らくおじいちゃん、おばあちゃんとかが、お子さんに「我孫子、いいところだから戻っておいで」みたいな。

○白土委員 そういう感覚なので、ABI ROADは市外の人に渡すというような感覚だと思います。要するに、もともと住んでいて、お子様の世代で、またこちらに家を求めたいという方は多いんですね。当然、ローンとかのお話が私どものところには来るので、そうすると、もともと住んでいたとか、親がいるからとか、割と本当に思い入れがある人が多いんだなということは感じますね。

○事務局 そういう市民の方が集まる場に行って、総合計画策定のための意見収集としてお邪魔したりするんですけど、ヨーカドー2階のこにこ広場という小さい子供を連れてお母さん方が集まる場所なんかで意見を聞いても、やっぱり、自分の親の家が近くにあるから、そこで孫も見てもらえるしというので引っ越したと。子育て環境がいいからとか、そういったところで我孫子に戻ってきてくれている方も結構多いですね。

○熊田副委員長 戸建ても買いやすいですよ、比較的、価格帯が。

○**白土委員** そうですね。リーズナブルなんですね。都心まで一本で行けて、この値段といいですか。

○**大炊委員** あと、始発で行けますから。

○**白土委員** 始発で行けますからね。やっぱり、おおたかの森とか柏の葉なんかと比べちゃうと値段が。

○**事務局** 新しくつくった「住み替えナビ」も、そこを重点的にアピールしたつくりです。我孫子と同じく、都内から40分圏内の各駅の土地の値段を比較して、我孫子が圧倒的に安いですよ。

○**白土委員** 自虐的な感じですけどね。

○**大炊委員** 待機児童ゼロであったりとか、それは必要。大事な要素ですからね。

○**事務局** そういったところで宣伝はしています。

○**大炊委員** 安心・安全な地元の農産物が買えますよと。

○**熊田副委員長** むしろ、柏とかその辺に職場がある人だったら、絶対いいですよ。もちろん我孫子にあるのが一番いいですけど。

都内に1時間半かけて行っていたのが、今、信じられないですね。片道1時間半、1日3時間、通勤でつぶれるじゃないですか。あんなラッシュの中で。

○**事務局** そういう意味では、もっと店とか雇用の場が生まれれば、もっと張りついて住んでくれる人が増えるんじゃないかというのはあるんですけども。

○**白土委員** でも、市内に雇用がなくてもいいですよ、近くにあれば。

○**事務局** まあ、そうですね。

○**白土委員** 逆に、あまり職住接近になると、やりづらいですから。

○**熊田副委員長** そうなんですよ。僕も、エスパとかに行くと、必ずパートさんとかと会ったりするんです。しょっちゅうですよ。「おお、社長」なんて言われるから。

○**大炊委員** 休日も仕事と切り離せないですね、それは。

○**白土委員** なかなか、振る舞いをきちんとしなくちゃいけないという。

○**熊田副委員長** 誰かれに常にね。

○**白土委員** そうですね、自分の知らない誰かが見ているかもしれないから。

○**大炊委員** 我孫子の地形が、なかなか企業を誘致するには難しいですね。

○**事務局** 馬の背になっていますからね。平坦なところが少ないというか。

○**大炊委員** やっぱり観光で力を入れたほうがいいような気がします。

- 白土委員** そうですね。要するに呼び込むということですね。ここで1回働いてもらうということももちろんですが、呼び込んで来てもらって、あとは、ここからどこかへ通ってもらうとか。
- 大炊委員** 呼び込んで、お金を落としてもらう場所を。
- 白土委員** きちんと場所と仕組みをつくる。
- 大炊委員** そうすると、商業の周りにも、人が集まって楽しめるアミューズメント的な空間づくりというのが。
- 熊田副委員長** そうか。そういう意味だと、消費税が上がったということは、商業系に向けて見たら意外とプラスの要素が強いですかね。消費税から地方税に落ちるのは1%でしたか。
- 事務局** そうですね。そういう意味ではその部分は。
- 大炊委員** 軽減税率は本当に面倒くさいですね。
- 事務局** ああ、そうですね。
- 白土委員** 両方ありますからね。
- 大炊委員** 仕入れるときは10%で仕入れるんだけど。
- 熊田副委員長** 加工したりして。
- 大炊委員** そうなんです。食材とかいろんな調味料関係は10%で入れるんだけど、加工して販売するときには8%になったりとか。
- 白土委員** つくったものが8%に変わっちゃいますからね。
- 事務局** その時点で、ロスが生まれているんですね。
- 大炊委員** うちで、いろんな業者さんから入ってもらって手数料をもらいますよね。でも、その手数料に対する税率は10%で払わなきゃいけない。その会計処理が本当に複雑で。
- 熊田副委員長** だから、差し引きを計算しなくちゃいけないんですよ。結局、原価でどう分けたかということ。
- 大炊委員** 早くこの軽減税率が終わってほしいと。2%分を人件費でまた長期間、長時間働いてしまうと、あまり還付金の意味がないのかもしれない。
- 事務局** 確かにそうですよね。
- 熊田副委員長** どうでしょうか。一応議題は全て終わりましたので。
- 事務局** そうしたら、こちらはこれで終わらしましょう。